

刀剣博物館での酒井忠久会長



■十月二十二日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(以下「日刀保」)を立組合の清水儀孝理事(長・服部暁治副理事長・嶋田の三名で訪問。刀剣博物館が墨田区へ移転して間もなく一年を迎えるが、就任以来、この大事業を推進してこられた酒井忠久会長にお話を伺った。会長は、福島県会津若松市で開催された戊辰百五十年記念歴史シンポジウム「東北・北陸における戊辰戦争」奥羽越前藩同盟と会津に庄内藩主の子孫としてパネラー参加され、その直後のインタビュアーとあって、併せて歴史秘話もご披露いただいた。

「日刀保がこの地で新たなスタートを切ってもうすぐ一年を迎えますが、この一年の印象をお聞かせください。」

会長 何よりも日刀保の職員全員が丸となり、過密なスケジュールの中、休日を返上するなどして移転準備と通常の業務を両立させ奮闘してくれました。また多くの方々や団体よりご寄付を賜り、その厚志に心から感謝申し上げます。

「まだまだ行わなければならないこともあり、力不足ですが、会長に頼る思いもありますが、会長を受けた以上は微力を尽くしたいと思えます。公益の団体としての視線を絶えず保ち、公平厳格に運営を行ってまいります。」

そして、今何よりも目指すのは、刀剣界に新たな重要無形文化財保持者(人間国宝)を

誕生させることです。日本刀という伝統文化を代表するものを伝えていくためには、旗印となる人間国宝が不可欠です。皆さんがご数年熱望していることですので、人間国宝を誕生させる環境づくりをしていかなければなりません。

「日刀保がさまざまな困難に見舞われた後に会長を引き受けられたわけですが……。」

会長 山中貞則さんが会長の時父が顧問をさせていただいており、私も同行して来たこともありましたが、私がその会長職に就くとは思っていませんでした。父が健在でしたら、「そのような大役を受けていいのかわ」と問われたかもしれません。

何はともあれ、引き受けた以上は、日刀保の信頼できる役員とともに日本刀を守り伝えていくことが最大の使命かと思っております。

刀剣の審査、日刀保たたら



刀剣博物館の展示室

運営、博物館事業、刀剣の保護・普及等、日刀保として進化とさらなる充実を努めていきたいと思えます。今は与えられた任務を粛々と進めていきたいと思えます。

「ご父君の忠明さんには設立当初から日刀保にご尽力いただき、また佐藤寒山・本間薫山両先生ともご昵懇でした。」

会長 大東文化大学の総長で漢詩人としても著名な土屋竹雨先生と父は親しくお付き合いされていたので、竹雨先生と

山先生と父との交流が始まり、致道博物館の設立にはご支援ご指導をいただきました。

薫山先生も酒田のご出身で同郷であることから、懇意にさせていただきました。

昭和二十四年五月に日刀保庄内支部が結成されると、父が初代支部長に就任し、その後、顧問として関わり続けていました。

以前に致道博物館から短刀の吉光(信濃藤四郎)が盗まれたことがあり、その時父は大変落胆しました。吉光の盗難を歌にも詠んでいます。

無事に戻った時は、父が一番喜び、慈しむように手入れをしていたことが思い浮かびます。殊の外、吉光に対しては思いが深かったようでした。

「その致道博物館は今、重要な文化の拠点となっています。」

会長 庄内藩の藩校は「致道館」と言いますが、その精神を受け継ぎました。論語の一節に「君子学んで以てテノ道ヲ致ス」とあります。昭和二十五年に財団法人以文会が設立しました。これも論語の「君子八文ヲ以て友

ヲ会ス」に由来しています。終戦後は欧米化が進み、郷土の学問が見過ごされてしまうのを恐れて、以文会で若い人たちが

酒井忠久 (さかい・ただひさ)
昭和21年、旧庄内藩主酒井家17代当主・酒井忠明氏の長男として鶴岡市に生まれる。財団法人致道博物館館長に就任。
平成4年、忠明氏の死に伴い松ヶ岡開墾場第4代総長に就任。
平成16年、公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長に就任。
平成28年、公益財団法人致道博物館(ちどうはくぶつかん) 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 TEL 0235-22-1199 <https://www.chido.jp/>



開館1周年を迎える刀剣博物館

新刀剣博物館開館一周年を迎えるに際して 酒井忠久日刀保会長に抱負を聞く

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2018.11.15 No.44

発行人 清水 儀孝
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
<http://www.zentosho.com/>

第44号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 木村 義治
佐藤 均 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正
瀬下 明 土子 民夫 網取 讓一 土肥 富康
服部 暁治 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏
編集顧問/ 深海 信彦

資格認定事業担当 赤荻 稔 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 岳子 大西 康一 木村 義孝
佐藤 均 猿田 慎男 嶋田 伸夫 清 網取 讓一
生野 正 瀬下 明 土子 民夫 信彦 松本 義行
土肥 豊久 服部 暁治 深海 吉井 唯夫
冥賀 吉也 持田 具宏

平成三十年八月三十日からの大雨により被災された方々、台風21号および24号により被災された方々、平成三十年九月六日に発生した北海道胆振地方中東部を震源とする地震により被災された方々には、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

刀剣古美術
三峯美術店
町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一十六六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 0494-1-3130
FAX 0494-1-3136

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二丁目一
TEL 06-6631-1211
FAX 06-6644-5464

← 次ページに続く



致道博物館の旧庄内藩主御隠殿(左)と旧西田川郡役所

ともにも勉強しようとなりまし
た。刀をはじめとして典籍、木版
祭器、藩校資料、民俗資料等が
多くあったものですから、博物
館機能を持たせた財団法人人文
会立致道博物館とします。その
後、財団法人致道博物館と改称
しました。

余力を残して降伏しました。最
後まで戦っていたならば、被害
は計り知れなかったと思えます。
後に『南洲翁遺訓』が編まれ
るエピソードなど、旧庄内藩士
と西郷隆盛との間には深い結び
つきがありました。

細川護立初代会長以来の刀剣
業界の「和」が永続し、人間国
宝の誕生も近いことを願ひ、新
刀剣博物館の開館一周年を心か
らお祝いしたいと思います。
(文責/嶋田伸夫)

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

常滑署によると、A・B両
容疑者は容疑を認め、Cと瀬
戸さんは否認している。Aと
Bは別の古物窃盗事件で逮捕
され、捜査の過程で今回の事
件が浮上、四人は知人や古物
商同士でつながりがあった、
とされている。

起訴処分が正式に告知された。
新聞は瀬戸さん逮捕の第一報は
大きく報じたが、その後、無実が
証明されたことには一切触れてい
ない。
瀬戸さんにとっては全くの災難
であったが、同業であれば、一〇
〇%起きないという保証はない。
肝に銘じておきたい。(土子民夫
お知らせ)

致道館は国指定史跡になって
います。また、近くの鶴岡警察
署庁舎などが、取り壊されてしま
うことになってしまい、地元
の強い要望もあって引き受ける
ことになり、致道博物館に移築
しました。現在は、その中で郷
土の資料を展示しています。
近隣の歴史的建造物である旧
西田川郡役所・旧渋谷家住宅な
ども敷地内に移設保存し、借財
ともにも引き受けました。

幕府は薩摩藩邸にその引き渡し
を求めますが、拒否されたため
に庄内藩を中心とした部隊が薩
摩藩邸を襲撃しました。それが
後の戊辰戦争の口実にな
つながら、庄内と会津
を討つべしとなってい
まいます。

徳川四天王の筆頭・酒井家十
八代当主として、また日刀保の
会長として、郷土の歴史や日本
刀の未来について深く語って
くださり、感銘を受けました。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

謙信の刀購入協力を
ふるさと納税など11億円
23日に東京都内で記者会見した武久
也市長は「優れた文化財を生まれた場所
に戻すことで刀剣文化の誇りを高め、子
どもたちに刀剣技術を伝え続けていく街
をつくりたい」と強調した。一方、購入
費に達しない場合は所有者と調整した上
で期限を延長する可能性にも言及した。
個人が寄付する場合、寄付額5000円以
上でペーパーナイフなど刀剣にちなんだ
返礼品が、約2900万円を寄付した場合は、
数量限定で作られた精巧な山鳥毛の
レプリカがもらえる。山鳥毛は1997年から
岡山県立博物館(岡山市)に寄託されて
いる。謙信ゆかりの新潟県上越市が所
有者と譲渡交渉したが金額面で折り合い
がつかず、購入を断念していた。

無銘一文字 岡山県瀬戸内市長船町を拠点と
した刀工「福岡一文字派」によって鎌倉時代中
期に作られたとされる備前刀。愛称は山鳥毛。
1952年に国宝に指定されており、刃長79.5釐、反り
3.4釐、重さ1.06kg。山鳥の羽毛のように乱れた刃文
が特徴的なことから、読み方の由来になったとい
う説がある。上杉謙信や景勝の愛刀としても知られる。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

入・窃盗」の容疑で逮捕が出て
いると言われ、有無を言わず身
柄は拘束され、東海署に二十日間
も拘留されることになった。
新聞によれば、同月十三日まで
に逮捕された愛知県AとB、静
岡県のCと瀬戸さんは今年一月、
共謀して愛知県南知多町の空き家
に侵入、保管されていた火縄銃一
丁と脇指五本(時価合計三十万円
相当)を盗んだ疑い。

山鳥毛里帰りプロジェクト「国宝「山鳥毛」を生まれ故郷の「備前長船」に。

山鳥毛里帰りプロジェクトポスター。山鳥毛の歴史、文化財としての価値、そして里帰りプロジェクトの概要が紹介されている。ポスターには山鳥毛の刀の画像と、プロジェクトのウェブサイトへのリンクが記載されている。

「登録証問題」を考える 16

事例 25

筆者は東京都内の在勤在住者である。それ故、刀の登録審査は、ほぼ東京都である。ところが、九月十三日、千葉県登録審査に赴くこととなった。登録証に偽装は一切なく、いい登録証だった。が、問題があった。裏銘が大変長かつたためであろう、省略されて記載されていたのだ。

長い銘文は寛政の改革の松平定信が砲術師・浅羽主馬の武術の見事さを称え、手柄山正繁の刀を授与したという、論文が書けるほど面白い内容である。

昭和三十三年の千葉県の登録審査員は、この長い銘文を見てゲンナリしてしまった。しかし、この登録審査員の先生、うまいことを思いついた。「以下銘有り」とのみ記し、それで終わりにしてしまっただ！ かくして長い銘文があることを匂わせながら、書かないで済ませることに成功したのだ。何事もなく時は過ぎた。

さて、六十年後。千葉県に電話で問い合わせると、「以下銘有り」で登録されているという。以前、茨城県で長い断銘を略していた例があり、銘文そのものは台帳には書いてあると回答を得たことがあったので、「台帳には銘文は書かれているのでしょうか」と問うと、「今まさに、台帳を見てお話ししています」という。「これでは困りますね」と言いつつ、「現物確認をしましょう」といってこたになり

た。現物確認には、通常、以下の手続きを踏むこ

とになる。

- ①東京都に資料を送付してもらう。
- ②東京都の登録審査会で現物確認をする。
- ③東京都から千葉県に回答を送る。
- ④千葉県が判断する。
- ⑤旧登録証を送り返して訂正交付にされる。

一月以上の時間がかかる……。今度の千葉県の登録審査会はいつだろう。千葉県は二月月に一回だったかな。問い合わせるとどうするだろう。お願ひしたらお邪魔できることになった。

担当者のY氏は親身に相談に乗ってくださった。昔の登録審査関係者のささやかなミスで、今日のわれわれがいかに迷惑するか、特に、その刀を現在所持している立場の人がどれだけの思いをするか、よくよくわかってくださっているようだった。

当日、約束の時間に千葉県教育会館内の会場を訪れた。受付で待っていると、「あ、これは〇〇県の脇指ですね」とかいう言葉が耳に入ってくる。登録のミスがいかに多いか、あらためて実感することになった。

しばし待った後、審査会場に案内された。扉を開けると、むあーっと活気のある空気が感じられた。テーブルは五つ。各々のテーブルに審査員は二人、記録係が一人。補助の人が各テーブルを回って助言したり、援助したりしていた。どうやら日刀保千葉支部の人が

登録審査を行っているらしいが、愛刀家ということもあり、刀に対する接し方がとても優しかった。お願いする刀を差し出すと見るなり、「や、これは、濤瀾乱刃、研磨仕立てか。刀を載せる台を丁寧に拭いて配慮してくださった。長い銘文を苦労しながら読んで書き取ったところを、記録係の方がこちらに示し、確認をさせてくれた。これはこういう字です」と指摘し、干支が問題になり、癸丑ですと答えたりしながら、解説は田満に進んだ。見ると銘鑑がなかった。あれば、干支などはすぐわかる。「日本刀銘鑑」を常備しておけばいいだろう。

今回はたまたま筆者が銘文に関心がとりわけ強く、また調査済みだったので、事なきを得たが、家から出てきました、という人が登録申請者であれば、おそらく誤記されたまま、何年も経過することになっただろう。

銘文解説が終わると、茎の写真撮影した。「うまく写らない」「光をこの角度から当てて」「これで大丈夫でしょう」と撮影係。サプの女性などを交えて悪戦苦闘しながら、懸命の撮影である。聞け

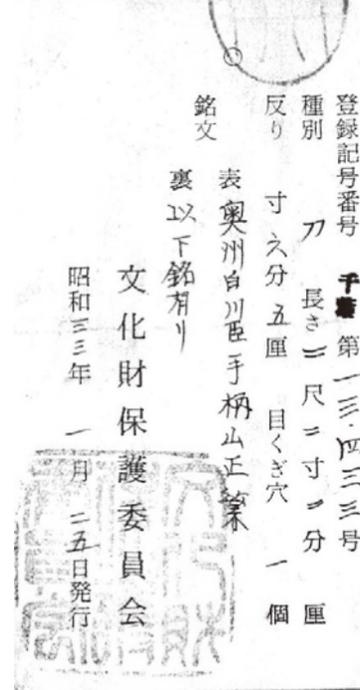
ば、この日から茎とどこにも極があれは極の撮影を始めたのだそうである。これはとてもいいことだと思ふ。デジタルで保存すれば印字することなく、いつでも確認も可能である。後々の誤記発覚にも柔軟に対応できるであろう。

担当者のY氏は、電話でも好印象だったが、実際にお会いしてみると、実に親しみやすい、明るく感じの好人物だった。会場内は常に活気があり、どの人も真剣なだけに、張り詰めたような緊張感はない。

長大な銘文を書き取った紙を基に、登録証発行係の人が、実際に発行する登録証の用紙に書いて内容を確認させてくださった。銘文が難解でしかも長く、係の人は何度も書き直しをしながらはなら



長銘の部分と登録証



日本の名刀を販売
江州屋
 店主 小暮 昇一
 〒529-1315
 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
 TEL 0749-421-2736
 携帯 090-13162-7641
 http://www.goushuya-anhon.com

NEWS & TOPICS
上越市立歴史博物館で高田藩主が奉納した大太刀を展示



開館した上越市歴史博物館

新潟県上越市に七月二十一日、上越市立歴史博物館がリニューアルオープンした。前身の総合博物館は昭和四十七年に開館し、平成十三年に新館の増築に合わせて本館を改修。今回、上越市の歴史に特化した博物館として総事業費約五億三千万円をかけて再リニューアルした。

開館に合わせて、当地にゆかりの上杉謙信の愛刀で国宝の太刀・無銘「文字(号山鳥毛)」の購入を市民ぐるみで進めていたが、現所蔵者と価格が折り合わず断念、現在は別の機関が購入交渉を行っていることは既報の通り。

この度、江戸時代初期に高田

NEWS & TOPICS
ふるさと納税で「燭台切光忠」に触れよう！が一瞬で受付終了

ふるさと納税をして、名刀に触れよう！そんな取り組みを茨城県水戸市が始めたが、申し込みが殺到し二時間足らずで締め切られた。

同市が「体験型謝礼品」として用意したのは、水戸徳川家に伝わる名刀「燭台切光忠」を手にとっての鑑賞と写真撮影ができる権利だった。水戸市内の徳川ミュージアムで、来年二月二日または九日のどちらか、寄付者が希望する日の午後四時から実施する。

申し込みにはクレジットカードで十万円の入金が必要。九月二十八日午前十時から募集を開始したところ、同十一時五十分ごろには二十人の定員に達してしまい、やむなく募集を締め切った。水戸市の市民税課によると、申し込み者の多くは女性と見られるという。

燭台切光忠は全長約六センチの打刀。元は戦国武将・伊達政宗の所有で、政宗が近くにあった燭台ごと無礼な小姓を切った逸話から呼ばれる。第二代水戸藩主・徳

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-1005-1
 東京都目黒区上目黒四-1-111
 TEL 03-371-0167
 03-371-0167
 FAX 03-371-0167

日本刀 販売 買取 委託
e-sword
 (株) e-sword
 (イーソード) 平子誠之
 〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
 TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
 http://www.e-sword.jp
 日本刀 イーソード 検索
 mail:info@e-sword.jp

ふるさと納税で「燭台切光忠」に触れよう！が一瞬で受付終了
 川光園が幼年のころに、政宗から譲ってもらったと伝わる。
 本刀は大正十二年(一九三三)の関東大震災で被災し、現存していないと思われてきた。しかし、実際は水戸徳川家ほかの多数の刀剣類と一緒に水戸市内で保管、徳川ミュージアムでは平成二十七年から一般公開を始めた。刀身は焼けて黒く変色しており、鈍元から茎にかけて鈍の地金が溶着している。「燭台切光忠」は日本刀を擬人化したオンラインゲーム「刀剣乱舞」にも登場していることから、根強い人気がある。

刀 剣 界

第31回「大刀剣市」特別展

「明治一五〇年」——明治時代から平成時代の刀匠「展」に寄せて

冥賀 吉也

●刀剣界の一五〇年

今年(平成三十年・二〇一八)は、明治元年(一八六八)から数えて一五〇年の節目の年である。そこで「大刀剣市」恒例の特別展では、表題の展示を企画した。

一五〇年という歳月は、身近に感じるようで永い年月でもある。遠く鎌倉時代、源頼朝が征夷大将軍になり鎌倉幕府を創設したのが一三〇二年で、建武中興が一三三四年、その間は一五〇年に満たない。明治から今日までの一五〇年間

に、刀剣界にもさまざまな出来事があった。そこで、日本刀に関するその間の出来事を振り返ってみることにする。

●大河ドラマ「西郷どん」の時代

安政以降、日本国中がまさに激動の時代であった。慶応四年(一八六八)正月三日に始まった鳥羽・伏見の戦から上野戦争・会津戦争と続き、明治二年、箱館戦争(五稜郭の戦)を最後に内戦は終わった。その間、日

●廃刀令

その後、世の中が平和に戻るとともに刀剣の需要は激減するが、激減の理由はほかにもある。

本国中が戦禍に見舞われた。当時の主力兵器は大砲やゲベル銃・エミール銃などであったが、白兵戦はやはり日本刀が主流であった。そのため、全国各地で刀剣の需要が沸騰した。安政以降、慶応までの裏年が入った日本刀が数多く残っていることが、それを物語っている。

被禁候条、此旨布告候事。但、違犯ノ者ハ其刀可取上事。一般の帯刀を全面的に禁止し、かつ違反者はその刀を取り上げるという衝撃的なものであった。実際、われわれが経眼し得る明治二・三・四年紀のある刀剣類は幕末期の一〇〇程度に激減し、明治五年紀のものはさらに少なく、明治六年以降の年紀はほとんど見ることがない。あるとしても、それはお守り短刀であったり、神社・仏閣などの注文による特殊なものに限られる。

このような事情から、当時、多くの刀工たちは廃業を余儀なくされ、大道具屋や下駄屋の刃物、農具、鉄作りなど全く異なる職種に転向していった。

このほか、全国に陸軍および海軍受命刀匠があり、軍刀の需要に応じ、日夜鍛錬に励んだ。それでも供給が追いつかず、残念ながら洋鋼の半鍛錬刀や粗製品も多数製造された。

昭和二十一年八月に銃砲等所持禁止令が公布になり、これに基づいて十月には初めて日本人審査員による刀剣審査が全国で行われた。同二十五年の銃砲刀剣類等所持取締令は、旧禁止令による武器回収の目的がほぼ達成されたこととみて制定に至ったものである。以後、美術品として価値のある刀剣類は登録審査を経て所持できることとなり、現在に至っている。

月山貞吉 ● 68歳
固山宗次 ● 66歳
山浦真雄 ● 65歳
細川義規 ● 64歳
勝村徳勝 ● 60歳
御勝山永貞 ● 59歳
左行秀 ● 57歳
松軒元興 ● 57歳
曙峰軒吉幸 ● 57歳
栗原信秀 ● 54歳
高橋長信 ● 53歳
周防永弘 ● 53歳
運寿一 ● 52歳
十三代国包 ● 49歳
水戸祐光 ● 49歳
堀井胤吉 ● 48歳
藤枝英義 ● 46歳
山浦兼虎 ● 44歳
山浦兼清 ● 44歳
齊藤清人 ● 42歳
宮本包則 ● 39歳
月山貞一 ● 34歳
弥門直勝 ● 34歳
一代綱俊 ● 33歳
十一代兼定 ● 32歳
逸見義隆 ● 27歳
羽山田真 ● 23歳

明治元年の年齢は不詳ながら、明治年紀の作品が確認できる刀工。ただし()は最初期の年号

川井久幸(文政)
細川正守(弘化)
横山祐包(天保)
大和守行安(嘉永)
泰龍齊宗寛(嘉永)
二代宗次(元治)

明治元年(1868)における有名刀工の年齢一覧

新政府は明治二年一月に農民や商人の帯刀を禁止し、さらに同四年八月には太政官布告により「脱刀令」が出され、華族・士族とも平時は帯刀しなくてもしなくてはならず、刀剣の需要はますますなくなっていく。決定的となったのは、明治九年三月の太政官布告「自今、大札服着用並二軍刀及び警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帯刀

●ウィーン万博と帝室技芸員
刀剣界がきわめて悲惨な状況にあって、明治六年、うれしい出来事があった。日本国が初めて公式参加したウィーン万国博覧会に、日本の伝統工芸品の代表として大・小二組の日本刀が展示されたのである。固山宗次と運寿一は作品が、「鉄の最高芸術品」として世界に向けて紹介された。

●軍刀ブーム
昭和に入ると、六年満州事変、十二年日中戦争、十六年太平洋戦争と、日本は軍国主義一色に染まっていた。そうした中で軍刀の需要は一気に高まっていった。それに心えたのが、まず靖国刀の誕生である。昭和八年七月、荒木貞夫陸軍大臣は有事に際しての軍刀整備のため、日本刀鍛錬会を靖国神社境内に組織した。それから終戦までの二年間に八二〇〇口が製作されている。代表刀工として宮口靖広・梶山靖徳・池田靖光が上げられ、いわゆる靖国刀匠

は皆「靖」の字を銘に冠している。同時期に栗原彦三郎昭秀は赤坂に日本刀鍛錬伝習所を開設、また神奈川県相武台に設けた日本刀学院からも数多くの軍刀を世に送り出している。昭秀門人は皆「昭」の字を冠しており、後に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された宮入昭平・天田昭次をはじめ、今野昭宗・石井昭房・秋元昭友等々多くの門人がいる。

●作刀再開と人間国宝
昭和二十一年八月に銃砲等所持禁止令が公布になり、これに基づいて十月には初めて日本人審査員による刀剣審査が全国で行われた。同二十五年の銃砲刀剣類等所持取締令は、旧禁止令による武器回収の目的がほぼ達成されたこととみて制定に至ったものである。以後、美術品として価値のある刀剣類は登録審査を経て所持できることとなり、現在に至っている。

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



国宝の当麻寺本堂

奈良県葛城市。私はここに、三十年住んでいる。平成の大合併で葛城市に変更される前からだ。名刺交換をするにたいして「どの辺ですか」と尋ねられる。しかし、刀剣業界は話が早い。「大和



奈良県葛城市 当麻寺の練供養式

石井 理子

伝五派の当麻です。言うまでもないが、当麻派は当麻寺に隷属していたものと考えられ、始祖は鎌倉末期の正応(一二八八〜九二)ごろの国行で、古刀期までさかのぼる。「当麻」と記されることもあり、「たえま」とうま」と読むこともある。その当麻寺までは、わが家から約三キロ。お気に入りのジョギングコースだ。二上山を眺めながら参道に入ると、雰囲気が変わる。さほど長い参道ではなく、民家が多い。それでも、土産物屋や飲食店が数軒並んでいる。週末や観光シーズン以外は至って静かだ。

さて、石段を登り東大門を守る仁王様に一礼して門を潜ると、通してくれたのは、まるでお茶の間。普通のお茶の間と違うのは、床の間側にずらっと刀剣類が並ぶところ。そして意外な張り紙を発見! 「刃切れの返品は一年以内とします」。なんとこの二間続きのお茶の間で、交換会が毎月三日・十九日の二回、三十五人もの会員が集まり、開催されている!

り前のようになっているが、自転車レース界ではベルギーのメルクス親子を見るくらい。野球だとクリフィ、リブケン、長嶋かな...一茂さんって名選手だったっけ? 血を吐くような親の練習をそばで見ても自分もなろうと思う者は少ないだろうが、刀剣の商売の練習をして血を吐く奴はいない。みんなどんどん跡継ぎになってくれ。帰路、野田橋は変わらず醤油の香りに包まれている。この香りだけで白いご飯が食べられそう。俺がこの町に引っ越したら、食費はかなり浮く。橋から見ると玉側の大平原に、陽は傾き落ちようとしている。まだ一〇〇キロの旅は折り返し地点だが、焦ることはない。前号と違い野田も、松伏町も、越谷もオバケは出ない。



松本富夫氏(右)・義行氏(左)とともに

「美術刀剣松本」は意外にも住宅街の中にあり、とても静かな環境だ。松本氏が現れるまで事務の女性が納得でせん。

第三十回「大刀剣市」以来の再会となったお父上でベテラン刀剣商の松本富夫氏も母屋から出ていらして、ひとしきり懐かし話。富夫氏・義行氏の両人もも転職組の刀剣商だったのは意外。刀剣界には二代目刀剣商は当た

で留意を。ほかにも、日本最古の石灯籠や梵鐘、奥院、金堂などの塔頭があるので回らねばいかげだ。そして、最も重要なのが「練供養式」だ。私たちは「おねり」と呼び、学校が半ドンになる嬉しい日だった。来年から日程が変わり、五月十四日から本来の中将姫の命日である四月十四日になる。

今日の俺の行き先は千葉県野田市。刀剣商で当組理事の松本義行氏を訪ねる。特大の台風がやって来るという。予定が互いに合わず、この日を逃すわけにいかなかった月末の金曜日十六時に現地となり、道路は混雑を極めた。



千葉県野田市 編

松伏町の県道から架かる野田橋を渡れば、町はもう醤油の香りに包まれている。野田といえば醤油を即連想するが、この秋悲しいニュースが俺を襲った。子供のころから大好きだったあのお菓子、ミニスカートの女王、英国人モデルのツイッギーさんが広告していた森永製菓さんのチョコフレックがこの町で作られている。それが製造終了というニュースだ。何でもスマホの画面がチョコで汚れるのがその理由とか。納得でせん。

帰路、野田橋は変わらず醤油の香りに包まれている。この香りだけで白いご飯が食べられそう。俺がこの町に引っ越したら、食費はかなり浮く。橋から見ると玉側の大平原に、陽は傾き落ちようとしている。まだ一〇〇キロの旅は折り返し地点だが、焦ることはない。前号と違い野田も、松伏町も、越谷もオバケは出ない。

お花茶屋の柄巻師「捲仙」(けんせん) 飯山隆司氏が柄巻師になったきっかけは、今から約二十年前に神田の古本屋で手にした一冊の本でした。その本は『古武器の職人』。昭和の名人といわれる柄巻師「捲山」(けんざん) 辻京二郎先生の写真と記事を目に留めたことでした。

受賞を重ねています。飯山氏の雅号「捲仙」は、平成二十一年に初めて優秀賞を受賞したとき、坂入師が辻京二郎先生の雅号になぞらえ、命名してくれたそうです。

柄巻は単に柄糸を巻いて終わりではありません。一見すると、一日で巻き上げた柄巻と区別できませんが、薄い細工や柄なりを決める下地作業や、江戸時代の仕様に劣らない「ぞべ糸」を使用する組紐や特染めの作業、巻き上げた後に菱の形や留めの形などを細かく直す最後の「小直し」など、江戸時代からの掟と伝承技術で完成度が高められます。

加えて、お国掬や時代掬といった掬による柄前の違いもあり、正統な柄前には技術に加えて知識が求められることを伺いました。

刀職紹介 第25回 掬を重んじ丁寧を心がける (柄巻師) 飯山隆司さん



現在も二カ月に一度は名古屋の坂入師を訪ねて研鑽に努めている数少ない専門の柄巻師です。

組合こよみ (平成30年9~10月)

- 9月10日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ初校。出席者、清水理事長・嶋田専務理事・編集常務理事・正野理事・松本理事・眞賀理事・持田理事・大平将広氏・杉浦弘幸氏・服部一隆氏・藤田裕介氏・眞賀亮典氏・土子民夫氏・事務局2名
14日 清水理事長と嶋田専務理事が吉原国家刀匠を訪問
17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加61名、出来高17,522,000円
17日 東京美術倶楽部において第2回回理事會を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・編集常務理事・飯田理事・大平理事・木村理事・猿田理事・正野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・持田理事・吉井理事・赤坂監事・大西監事
17日 東京美術倶楽部において「刀剣評価鑑定士」第2回公開模擬試験を開催。参加27名
17日 東京美術倶楽部において「刀剣界」第44号編集委員会を開催(企画)。出席者、清水理事長・嶋田専務理事・眞賀理事・土子氏
18日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ再校。出席者、清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・眞賀理事・土子氏
20日 組合事務局において嶋田専務理事と産経新聞社松本氏が掲載広告について打ち合わせ
26日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ色校。出席者、嶋田専務理事・編集常務理事・正野理事・持田理事・杉浦氏・服部氏・眞賀氏・土子氏
10月1日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ色校再校。出席者、清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・眞賀理事・土子氏
16日 東京美術倶楽部において「刀剣界」第44号編集委員会を開催(初校)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・編集常務理事・大平理事・正野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・赤坂監事・土子氏
17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加51名、出来高12,138,000円
17日 東京美術倶楽部において第3回回理事會を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・編集常務理事・飯田理事・大平理事・猿田理事・正野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・大西監事
22日 清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が「刀剣界」取材のため日刀剣酒井忠久会長を訪問
26日 新橋アラザルにおいて「刀剣界」第44号編集委員会を開催(再校)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・土子氏

アオバ企画(株) 高橋一 TEL 130-0012 FAX 03-3362-1131

刀剣・小道具・甲冑武器 飯田高遠堂 代表取締役 飯田慶雄 TEL 03-3951-3312

(株)美術刀剣松本 松本富夫行 TEL 278-0043 千葉県野田市清水199-1

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑 日本刀 伊波賢一 Ken-ichi Inami TEL 03-3434-4321

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16

ブック・レビュー BOOK REVIEW

乱世に生きた武将たちの浮き沈み

『敗れども負けず』 武内涼著 新潮社 一、七二八円(税込)

「甲陽軍艦」は、国を滅ぼす大将に四つの典型があると指摘する。

- 第一番、馬鹿な大将
- 第二番、利口すぎる大将
- 第三番、臆病な大将
- 第四番、強すぎる大将

同書は馬鹿な大将として今川義元を、利口すぎる大将として武田義信(信玄の嫡男)だが自らを、臆病な大将として山内上杉憲政を、強すぎる大将として武田勝頼を取り上げる。

関東管領・山内上杉憲政について、当時、上州に生きた僧は「上杉殿乱行無道」と評し、『甲陽軍艦』は「義理をばわきになし外聞を本にし給へば、義理をおろそかに、外側の評判を最も大切にす」と筆誅を加え、『北越軍談』は「生徳昏愚にして武將の器なし」と、これまた容赦ない。

以上は、第一話「管領の馬」の書き出しです。ちよと読んでみよつかな、と思いませんか。

『敗れども負けず』は五話からなる短編集です。室町時代三話、鎌倉時代一話、構成されています。室町時代は刀剣商のわれわれにとって心永備前から末相州、末備前といった古刀最末期に相当し、縁が深いですが、肝心なその歴史的背景についてはよくわからないのではないのでしょうか。少なくとも小生にとって、室町時代というのはそんな時代なのですが、この本を読むことによって端緒を



豊臣から徳川へ天下の覇権が移る中、またも信生の思案で生き残った。鍋島信生改め鍋島直茂が佐賀藩の藩祖となり、主筋に当たる龍造寺家は没落してしまふ。

開くことができた気になりました。

第一話は天文二十一年(一五五二)に山内上杉憲政が北条氏康に攻め込まれ落城、その後越後に逃げ、長尾景虎に関東管領職と上杉姓を譲ったこと。その結果、上杉謙信が関東遠征をし、岩槻の太田三楽斎、安房の里見、常陸の佐竹、下野の宇都宮や那須一族を巻き込んで結成された「十万人の反北条連合軍」による小田原城包囲など、関東に引き起されるさまざまな激動のきっかけとなる。

第三話「沖田騷」は天正十三年(一五八五)の話。当時の九州では、肥前の龍造寺、薩摩の島津、豊後の大友の三強が対峙していた。

かつて九州で最強の大名は大友宗麟であったが、日向耳川の戦いで島津に大敗し、宗麟自身の失政もあって弱体化した。その隙を縫い、新興勢力龍造寺と、古より南鎮西に押し込められてきた島津が急拡大した。龍造寺としては島津と結び、大友を滅ぼしたかった。ところが用心深い島津義久は、落ち目の大友より、上り龍の勢いを見せる龍造寺を警戒。同盟の申し出を一蹴、龍造寺対島津の戦が沖田騷で始まった。

「騷」とは、田と田の間の細道を意味する。沖田騷は悪水が抜けない泥田であり、龍造寺家はここで作戦ミスから大敗、龍造寺隆信を討ち取られ、島津家に降することになる。だが秀吉が九州に出陣すると、隆信の嫡男・龍造寺政家ではなく、鍋島信生の判断で島津家から抜け、豊臣方に加わる。

この結城攻めは、初めは籠城方が優勢であったが、老練な上杉入道が作戦で、戦いが長期戦になると、籠城方には兵糧の限界という厳然たる先が見えてしまふ。

改元した嘉吉元年(一四四一)四月十五日、拳兵から一年以上経過した日に結城城は落城し、春王丸と安王丸は幕府軍にとられる。身柄は都に護送されることになったが、途中、將軍からの命令変更により美濃国垂井の宿で殺されてしまふ。同年五月十六日。

六月二十四日、足利義教は家臣赤松満祐の屋敷に招かれ、春王・安王対峙の祝宴中、斬り殺されてしまふ。

第二話は、源氏に滅ぼされる越後平氏の女性の話。第五話は北条政子のお話だが、いずれも「敗れども負けず」。勝負は「往つたり来たり」ということで、ぜひ読んでみてくださう。

(持田員宏)

真実の生きた歴史を学ぶことの意味

『武士の日本史』 高橋昌明著 岩波書店 定価(本体八八〇円十税)

「高橋昌明さんの本面白いわ、武士の歴史のこと書いてるんだけど」

博士の読書家であるその方の推薦する本に、これまで外れは一度もない。早速、書店で見つけて購入した。

高橋昌明先生は、武士とは何か、どのように発生してきたのか、について、精力的に研究し、『武士の成立 武士像の創出』(東京大学出版会)をはじめとする著書や論文を多数発表している。本書は武士の発生、成長、展開について述べ、江戸時代、もはや戦士ではなくなった武士の社会的な存在の仕方、儒学との関わり、維新後の武士観、現代の武士へのイメージ……と、武士を通じて見る日本史を実に軽快な筆致で、わかりやすく、読みやすく、展開している。

筆者が小学生のころ、平将門に熱中していた。大河ドラマ『風雲と虹』で、先日亡くなった加藤剛さんが演じる将門は魅力的だったし、その勇壮な武者姿、反りの高い太刀、都と草深い坂東を舞台に展開する物語はとも面白かった。そして、江戸時代の武士は全く異なる様子に、かなり違和感を覚えた。高橋英樹さんが熱演した鞍馬天狗と、将門はどつてこんな違うのか、とても不思議だった。

学校ではちょうど歴史の授業が始まり、武士がどうして興ったのかも習った。将門が草創期の

武士であることや、自分で開発した土地を守るべく武装したのが武士だという説明だったように記憶している。そういう風に教わった人は多いのではないかと。高橋先生によれば、この説明は正しくない。では、武士はどのようにして発生したのか、興味のある人はぜひ本書を読んでほしい。

刀や武器・武具のことも、かなりページを割いて書かれている。「第三章 武器と戦闘」である。戦闘の様子、日本古来の馬と従者、太刀・刀について、目から鱗ともいふべきことも紹介されており、とても面白かった。馬が小さかったことは以前から知っていたが、馬上の戦士が突撃する戦いはかなり近代になるまで不可能なことは衝撃的である。江戸時代前期の刀の反りが浅いのは、竹刀で稽古されることが多かったからという説明がよくなされる。が、竹刀による剣道が盛んになったのは十九世紀江戸時代後期であり、その説明はそもそもあり得ないこと。となると、寛文新刀が登場するのは、武術稽古以外に理由を探さなくてはならないことになる。

また、加藤清正に勇壮な逸話は少なく、むしろ、世事に長けた人物が紹介されていることにはかなりびっくりし、肥後同田貫の剛刀に関連して「加藤清正は秀吉子飼いの猛将云々」との説明をしていた自分からすると、何とも違和感のある人物像と言わざるを得ない。

従来、史学の本で、刀そのものについて触れられることは少なかった。書かれていても、書き手自身が刀を手にした経験に乏しいことがわかってしまふことも多かった。高橋先生はそもそも

ないらしい。刀の研ぎと美しさについて「地肌を青黒く、焼きの入った刃の部分を白く研ぎ出し、棟と鑓地は磨いて地の色よりさらに黒い光沢を出した結果、「妖しいまでの美」が生まれることに理解を示している。また、桜田門外の変で死んだ彦根藩士の大きく刃こぼれた刀を、彦根城博物館で熟覧して、写真まで載せている。さすがである。

終盤になると、それまでの筆致とはやや異なり、いささか重苦しい感じを受けた。武士のイメージが、軍政下の日本で、戦争に利用されていく過程が切々と書かれていくからである。「日本が武の国か日本人は勇敢な民族だとかいう確かめようのないプロパガンダに乗せられるのではなく」「平和と安全保障の国際関係、国際環境を構築する方向で、それこそ勇敢に、粘り強く努力すべきである」と述べ、「日本の武士の歴史を学ぶのには、そういう今日的な意味もある。人文科学は役に立たないという昨今の風気もある」と、あえてそういう切っておく」との結びに、かつて人文科学研究科に籍を置いた筆者としてはとても共感を覚えるし、昨今の教育改革で理系、実学に重きを置く空気の中で、地道に史料と向き合う学者、そして学生を指導する教育者としての高橋先生の強い思いを感じる。

気概のある一書である。強くお勧めする。筆者も折に触れて読み返すつもりである。

■高橋昌明(たかはし・まさあき)。昭和二十年高知市生まれ。同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。滋賀大学教育学部教授、神戸大学大学院人文科学科教授。現在は神戸大学名誉教授。日本中世史専攻。文学博士。「平清盛 福原の夢」(講談社選書メチエ)「清盛以前 伊勢平氏の興隆」(平凡社ライオン)「平家と六波羅幕府」(東京大学出版会)。

高橋昌明(たかはし・まさあき)について触れられることは少なかった。書かれていても、書き手自身が刀を手にした経験に乏しいことがわかってしまふことも多かった。高橋先生はそもそも

日刀元会長 佐々淳行氏

財団法人日本美術刀剣保存協会(当時)の第七代会長を務めた佐々淳行(ささ・あつゆき)氏が十月十日、老衰のため逝去された。八十七歳。

佐々氏は東京都出身。東大卒。国家地方警察本部(現警察庁)に入庁し、昭和五十七年のあさま山荘事件では警察庁警備局幹部として捜査に携わった。

その後、三重県警本部長のほか、旧防衛施設庁長官などを歴任し、昭和六十一年〜平成元年に旧内閣安全保障室の初代室長を務めた。退職後は危機管理の専門家として執筆・コメンテーター・講演などの活動に携わっていた。

佐々淳行氏は戦国武将・佐々成政の後裔といい、祖父は熊本・済々黈の創立者で衆議院議員の佐々友房、父は政治学者で参議院議員の佐々弘雄、姉に日本婦人有権者同盟代表で参議院議員の紀平梯子がいる。著書に『危機管理のノウハウ』三部作、『連合赤軍「あさま山荘」事件』

『ザ・ハイジ ャッカー』日本赤軍とのわが「七年戦争」などがある。



小笠原信夫(おがさわらのぶお)氏

十月二十七日、病氣のため逝去された。七十九歳。早稲田大学政治経済学部を卒業後、財団法人日本美術刀剣保存協会を経て、昭和四十一年東京国立博物館に勤務。刀剣室長、工芸課長等を歴任し、平成十年退官。同館名誉館員。多くの展覧会を企画したほか、「日本刀の鑑賞基礎知識」「長曾祢所蔵新考」などの著書多数。来年二月に最後の著作が刊行される。告別式は家族にて行った。十二月九日、上野精養軒にて「徳会」の開催が予定されている。

高橋昌明(たかはし・まさあき)について触れられることは少なかった。書かれていても、書き手自身が刀を手にした経験に乏しいことがわかってしまふことも多かった。高橋先生はそもそも

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

イベント・レポート

「お守り刀展覧会」林原美術館で初の開催

全日本刀匠会(三上貞直会長)主催、文化庁後援の「第13回お守り刀展覧会」(審査結果別表)は、長野会場の坂城町鉄の展示館に続いて、十一月十七日(土)から来年一月十四日(日)まで林原美術館(岡山市北区丸の内二七二五 〇八六二二三 一七三三)で開催されている。

なお、三月六日(水)から一週間、横浜高島屋において展示販売される作品も多く、これらの中から気に入ったお守り刀を購入するチャンスである。次に、最高賞の文部科学大臣賞に輝いた月山一郎氏(刀匠銘貞伸)の受賞の弁を掲載する。

(伊波賢一)

第13回お守り刀展覧会 審査結果

Table with award results for the 13th Oshori Knife Exhibition. Categories include Grand Prize (文部科学大臣賞), Special Prize (特賞), and various other awards across different knife types (刀身, 外装, 特別賞).

文部科学大臣賞を受賞して

月山貞伸

この度の「お守り刀展覧会」にて最高賞の文部科学大臣賞と、刀身の部第一席を受賞させていただきました。このような栄えある賞を受賞できましたのも、日ごろよりご支援を頂いている皆さま、刀匠をはじめとする一門、職方の皆さま、仕事に打ち込むことに温かく応援し続けてくれる家族あつてのご感謝です。

月山鍛冶歴史の先祖の御刀を拝見する度に、作品の品格の高さに感動を覚えるとともに、その時代時代において大変な努力や苦勞をされて作品が鍛え上げられたことを思うと、私自身も後継としてそれ以上の思いを持って作刀に向き合わなければならない。そう考える中で、ここ数年皆焼という作風に挑戦するようになりました。

月山家に伝わる伝統の技を習得することもまだまだ多く、大変難しいことですが、新しいことに挑戦することには今までにないことのない失敗や苦難があり、ある意味で自分との戦いでもあります。思うようにいかないこと、連続して、気持ちも迷うような時期に、テレビ東京系列の番組で約半年の

その時はそれが精いっぱい作品でしたが、それから二年がたち土台となる自信が築き始めた時に

今回の受賞となりました。

経験は何よりの財産と思えるようになりましたが、作品にまだまだ満足はしていません。先の名工やご先祖に日々挑戦する思いで、さらにその先を見つめて今後も作刀に一層の情熱を注ぎ、技術研鑽に努め、鍛錬の日々に邁進し続けてまいります。

末筆とはなりましたが、主催の全日本刀匠会、文化庁をはじめとするご後援関係各所には心より御礼申し上げますとともに、お守り刀展覧会ますますの発展を祈念しております。

撮影も終盤を迎えるころ、積み重ねてきた経験と自分の感覚が少しずつ繋がるような気がしてきました。迎えた焼入れの撮影。一振目、二振目と思ような焼きが入らず、その日は断念。しかし今さら何かを大きく変えて結果を求めても仕方がないと、自分のやっていることを信じて挑んだ翌日の焼入れ。その作品が二年前のお守り刀展覧会での出品作となりました。

その時はそれが精いっぱい作品でしたが、それから二年がたち土台となる自信が築き始めた時に

その時はそれが精いっぱい作品でしたが、それから二年がたち土台となる自信が築き始めた時に

「刀剣類の保存に関わる部分修復技術研修会」を二会場で実施

公益財団法人日本刀文化振興協会(本阿彌光洲理事長)では、平成二十八年(2016)から文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業(伝統芸能等分野)」に採択された「刀剣類の保存に関わる部分修復技術研修会」を開催し、昨年度からは「坂城町鉄の展示館」と「大阪歴史博物館」の二会場で実施しています。

今年度も同様に「坂城町鉄の展示館」(五月二十三日二十五日)と「大阪歴史博物館」(九月十一日十四日)で実施しました。本研修会は、国宝や重要文化財の研磨・修復に深く関わってきた本阿彌理事長(重要無形文化財保持者)をはじめ、故光敬氏(同)以来小野家三代にわたって続けてきた東京国立博物館での部分修復の経験や、本年「刀装(鞘)制作修理」の選定保存技術保持者に認定された高山一之(鞘師)氏、春日大社などの刀装具の復元に携わってきた宮島宏(白銀師)氏らの基本理念と技術を次世代に伝授するものです。

博物館・美術館では文化財を多数保有している中で、諸般の事情から日本刀の修復・保存に課題を抱えている団体も少なくありません。この研修ではその一助となることも目指しています。刀剣であれ外装であれ、年月の経過とともに劣化してゆくことはやむを得ません。それらの研磨や修復を全てやり直すのではなく、良い仕事は可能な限り残し、現状

を保持することが必要な時代になってきています。研磨部門では、研修会場によって変わる採光の不具合によるハイレベルな修復研磨の支障を軽減することが重要な課題でしたが、テープメントを使用することで改善がかなり進みました。鞘部門では、登録証を鞘にセロテープで張り付けた跡などが多くあり、削り鞘により鯉口や鞘内外の修理を人数が少ない中、手際よくこなしていただきました。罎の歪みや傷みや汚れが刀身の錆の発生原因となり、鞘の修復にも支障を来した経験などを踏まえ、昨年から白銀部門の研修も加えました。専門の白銀師による罎の洗浄が錆の発生を明らかに軽減できることが実証され、時代色を変えないための低温処理による修理技術(ガタ止めなど)も格段に向上したと思います。その他、修復する刀身の撮影も固定機材や照明の工夫によって改善されました。

当初よりこの研修はハイレベルな技能が必要なため、高度な技量を持った方々に研修生として参加していただいたおかげで、携わった仕事は全てどこに出しても恥ず

収支が黒字でなければ次回開催は行えなくなる厳しい時代に、まさに決死覚悟で立ち上げたのが本展覧会だったのである。同氏が人材交流で東京国立博物館に転勤になり、準備の進まぬ状況に日々鬱々としていたこの時期、誰もが予期していなかった新勢力、刀剣乱舞を旗頭にする刀剣女子大連合が立ち上がった。まさに天啓とはこのことか。義により立ち上がり、まさに決死隊の如き形相で孤軍奮闘していた末兼軍の元に颯爽と現れたこの得体の知らない援



台風24号が直撃した日にも開館前から200人を超える列が

軍は、しかもとにかく強い！あれよあれよと言う間に、刀剣を展示する全国各地の博物館で連日新記録を打ち立て、業界関係者を吃驚仰天させながら、流行語大賞へのノミネートまで成し遂げてしまったのである。強力な援軍を受けた「京のかたな」展の出品作は絢爛豪華の一言。現存する京都山城鍛冶を含む国宝指定作品十九点を中心に、平安時代から、国立博物館の展示としては異例の平成に至る作品までを網羅し、その技術系譜と刀剣文化

に与えた影響を探っている。十月三十日からは後期展示がスタートしており、石切丸や信濃藤四郎、鯉尾藤四郎、骨喰藤四郎、新身来国光、二ツ銘則宗のほか、豊富秀頼や京都・八坂神社ゆかりの太刀などが登場し、新たな作品が楽しめる。十一月二十五日(日)までの開催なので、まだご覧になっていない方はぜひ一度、既に行かれた方は何足も足を運んでいただきたい展覧会である。(飯田慶雄)

かしくない立派な仕上がりの団体があれば相談に応じますし、ご紹介があれば対応いたします。この度、両館と学芸員・職員の間にはご理解と協力を頂きました。心より御礼申し上げます。《講師》(研修)本阿彌光洲・高岩節夫・渡部恒継・阿部一紀・小野敬博(白鞘)高山一之・剣持直利・森隆浩(白銀)宮島宏・宮下武 《部分修復研修了証授与者》(研修)本阿彌毅・森井鐵太郎・水田吉政・正海裕人・玉置城二・関山和進・阿部聡一郎(白鞘)森井敦央・田澤敦詞・古川和幸(白銀)松本豊・木下宗憲 (部分修復研修実行委員長 阿部一紀)

催事情報

刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

企画展「諸国漫遊—多彩なお国拵と日本刀五ヶ伝を巡る旅—」

室町時代後期、戦闘形式の変化に伴い日本刀の様式の主体が太刀から打刀へと移行したことにより、打刀拵の先駆けとも言える天正拵が成立しました。そして江戸時代に入り、幕藩体制の下、藩内の文化や気質、推奨した剣術などから独自の様式を取り入れた「お国拵」と呼ばれるものが誕生しました。一方、古刀のうち、大和・山城・備前・相模・美濃の五つの国々の作風は各伝法となり、桃山時代以降の作刀に継承され「五ヶ伝」として作風体系の基盤となりました。

尾張、柳生、庄内、肥後、薩摩の個性豊かなお国拵の名品と当館所蔵の国指定文化財を中心とした刀剣から五ヶ伝の名刀をご覧ください。

会期：10月13日(土)～12月24日(月・祝日) 月曜休館



幕末維新ミュージアム 霊山歴史館

〒605-0861 京都市東山区清閑寺霊山町1 ☎075-531-3773
http://www.ryozen-museum.or.jp/index.html

2018年 通年特別展「大西郷展」 第4期 明治維新から西南戦争へ

薩長同盟から王政復古、鳥羽伏見の戦、江戸城無血開城と主導的役割を果たした西郷隆盛に焦点を当て、その生涯を辿ります。

第4期は「明治維新から西南戦争へ」です。西郷や木戸孝允、大久保利通の資料、また初公開となる錦絵など、貴重な資料を多数展示します。「鳥羽伏見の戦」や「西南戦争」の資料、西郷を紹介した刀も見どころです。

会期：9月4日(火)～1月6日(日)



高岡の森弘前藩歴史館

〒036-1344 青森県弘前市大字高岡字獅子沢128-112 ☎0172-83-3110
http://www.city.hirosaki.aomori.jp/takaoka-rekishikan/

高岡の森の刀剣展

弘前市の成り立ちに大きく関わる弘前藩津軽氏の旧蔵品を中心とした資料を展示する「高岡の森弘前藩歴史館」が、平成30年4月1日にオープンしました。

本展では、弘前藩初代藩主津軽為信が豊臣秀吉より拝領したとされる太刀「友成作」や、四代藩主信政の太刀「真守」(ともに重要文化財)など、弘前藩や津軽家に関わる歴史的価値の高い刀剣類を中心に展示します。

会期：9月29日(土)～11月25日(日)



本能寺大寶殿宝物館

〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町522 ☎075-231-5335
http://www.kyoto-honnouji.jp/news/

本能寺刀剣展 2018秋

本展では、今春の展示をさらに充実させ、本能寺と不思議な縁でつながった刀剣を中心に展示します。全国各地の職人の手によって保存修復を終えた本能寺寺宝刀剣の織田信長所持・森蘭丸所持と伝わる大太刀・刀の展示に加え、今まで公開されなかった寺宝刀剣の保存修復を新たに行い、本展にて初披露します。

本能寺がたどってきた稀有な歴史と、現代までさまざまな縁が繋がり、残され伝わってきた刀剣の魅力や美しさと歴史的ロマンと同時に、後世に刀の伝統を伝えようとする現代の匠たちの技の数々を感じていただける展覧会です。

会期：9月29日(土)～12月23日(日)



日南町美術館

〒689-5212 鳥取県日野郡日南町霞785 ☎0859-77-1113
http://culture.town.nichinan.tottori.jp/bijyutukan/bijyutukan.top.html.htm

名刀展～森井父子三人の仕事～

鳥取県日野郡一帯は、大正時代までたたら製鉄が盛んに行われていました。その中でも日南町は大規模なたたら製鉄が行われ、町は非常に栄えていました。その玉鋼は「印賀鋼」と言われ、その良質さで一等群を抜く存在として全国にその名を知られていました。

本展は、大山開山1300年を機に、大山の裾野に広がる豊かな自然がもたらした「たたら製鉄」で栄えたこの日南町において、研師の森井徳訓と、その子息である研師の鐵太郎、鞆師の敦央の親子三人が手掛けた刀剣の仕事を通して、日本刀の美と悠久の歴史と文化の一端に触れていただけたら幸いです。

会期：11月2日(金)～12月2日(日) 月曜休館



ホテル多度温泉

〒511-0122 三重県桑名市多度町古野2692 ☎0594-49-3111
http://www.touken-world.jp/kuwana/

備前の歴史展

備前伝において平安時代から室町時代の作品をご用意しました。ぜひ、それぞれの作品の特徴を見比べながらお楽しみください。

会期：10月4日(木)～12月末

会場：ホテル多度温泉レジデンス新館3階ローズウッド ※施設利用者はご自由にご覧いただけます。コレクションルームのみの入館の方はご連絡ください。



関鍛冶伝承館

〒501-3857 岐阜県関市南春日町9番地1 ☎0575-23-3825
https://www.city.seki.lg.jp/kanko/0000001558.html

宝刀 一関に集った宝たち

今回の企画展は、水無神社(関市富之保)の太刀「銘助貞作上」(関市指定重要文化財)をはじめとして、春日神社(関市南春日町)・貴船神社(関市貴船町)などにおいて、現代まで守り伝えられてきた関の宝刀を展示します。関という土地に深く根付いた刀剣文化に触れるきっかけとなれば幸いです。

会期：10月6日(土)～12月3日(月)



千葉県立中央博物館大多喜城分館

〒298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 ☎0470-82-3007
http://www2.chiba-muse.or.jp/www/SONAN/index.html

房総ゆかりの甲冑

房総は江戸のお膝元であり徳川譜代の重臣が、中小大名として配置されました。本展は戦国時代の東国の大名からその後の徳川譜代大名や家臣の所用した甲冑を展示し、その由来と様式、意匠について紹介します。

会期：10月26日(金)～12月9日(日)



久留里城址資料館

〒292-0422 千葉県君津市久留里字内山 ☎0439-27-3478
https://www.city.kimitsu.lg.jp/soshiki/54/

明治150年記念展 「久留里藩の記憶と象徴の行方 —知られざる近代以降の旧藩社会—」

明治150年という節目を記念し、幕末維新期の久留里藩の様子を振り返るとともに、明治期以降の旧藩関係者らの動向を探ります。君津市内のみならず、県外・県外に残された久留里藩ゆかりの品々を展示し、これまであまり紹介されてこなかった近代以降の旧藩社会について浮き彫りにします。

会期：10月10日(水)～12月2日(日) 月曜休館



伝国の杜 米沢市上杉博物館

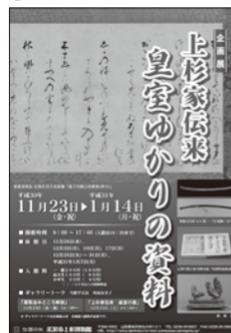
〒992-0052 山形県米沢市丸の内一丁目2-1 ☎0238-26-8001
https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/uesugi.htm

企画展「上杉家伝来 皇室ゆかりの資料」

上杉家伝来の皇室の書を中心に、皇室ゆかりの資料を紹介します。収蔵品の充実を図り、魅力的な展示や調査・研究によってより多くの情報発信ができるよう、収集された皇室の書の初公開です。

国宝上杉家文書中の朝廷関連文書をはじめ文献資料、上杉謙信が正親町天皇から拝領した五虎退の短刀、明治天皇のお気に召した姫鶴一文字の太刀、近代の天皇や皇族ゆかりの資料もご覧いただけます。

会期：11月23日(金・祝)～1月14日(月・祝)



ミュージアム都留

〒402-0053 山梨県都留市上谷一丁目5-1 ☎0554-45-8008
http://www.city.tsuru.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=5976

企画展 「魂の造形 日本刀一名刀と名作から学ぶ日本の心」

刀剣は江戸時代(新刀)の傑作短刀である「日本三刀」より、最上大業物に列する長曾祢虎徹「号 蓬萊山虎徹」、野田繁慶「号 彫抜繁慶」の2振、幕末の四賢侯伊達宗城の愛刀や堀川国広、津田助直などの傑作刀など、名だたる名工の作を、刀装具は、鐔の最高位に君臨する金家・信家・埋忠明寿の桃山三名人をはじめ、後藤家各代の名作など、指折りの作品を展示します。

会期：11月6日(火)～1月14日(月)

